

みんなで作り続ける地域と共に生きる社会変革を ～アジア競技大会・アジアパラ競技大会から始めよう！ Aichi - Nagoya

愛知県重度障害者団体連絡協議会

〒466-0037 愛知県名古屋市昭和区恵方町 2-15 AJU 車いすセンター内

助成事業の概要

当団体では 2021 年度より、当団体主催でアジア競技大会・アジアパラ競技大会に関する学習会、シンポジウム（日本社会福祉弘済会助成事業）を愛知県内で開催。パラアスリートをはじめ、行政関係者、東京オリパラ関係者等を登壇者に招き、共生社会実現に向け、バリアフリー社会の重要性の機運を高めるきっかけとすることができており、新聞等にも掲載されるなど高い評価を得てきました。さらに、2023 年度は、アジア競技大会・アジアパラ競技大会アクセシビリティガイドライン検討会に委員として参画、積極的に提案を行いました。また、先催大会となる第 5 回杭州 2022 アジアパラ競技大会について、バリアフリー設備の視察、現地障害者と交流を目的に視察団を結成、情報収集を行いました。2023・2024 年度は、上記のアクセシビリティガイドラインの内容を中心に愛知県全体へ広げるため、大会組織委員会の協力のもと、県内 3 都市において、同様の学習会およびシンポジウムを開催し、さらなる共生社会の実現に向けた取り組みを加速させました。

2025 年度は、競技施設や交通アクセス、周囲の環境整備がされる中、当事者参画をしていき、より多くの人たちにアピールをしています。

事業の成果

今年度のシンポジウムを開催して実感したことは、メイン会場や競技施設、交通アクセス、周囲

地域の生活の場が、誰もが利用しやすい環境になることで、各地域で開催される場所で、競技場のみのバリアフリー化でなく、地域や行政など環境が変わると同時に意識も変わることが、このシンポジウムを開催することで、変化を感じました。それぞれの取り組みやシンポジウム後の意識改革があり、やはり、計画段階からの様々な視点と当事者参画を重要視した上で、一緒に作り上げていくことを行政及び市民にアピールしていくことの重要性を感じました。

今年度のシンポジウムが開催され、IG アリーナ、瑞穂陸上競技場のバリアフリー化が当事者参画によって生まれ変わったか、行政及び事業者のバリアフリーの意識変革がされたか、様々なところで変化があったことが成果でした。

アジア競技大会・アジアパラ競技大会の周知をどのようにしていくか？どのように盛り上げていくか？シンポジウムを続けてくる中で、パラスポーツの生の迫力を観て・感じてもらうとして、様々な競技に対する講話や実演を行ってきました。今年度はボッチャの選手にお越しいただき、一般の方に体験してもらうことができ、目指すところは子どもたちに体験してもらいたいと思いました。バリアフリー化に関しては、今回の愛知でのアジア競技大会・アジアパラ競技大会の課題は、宿泊、交通アクセスなど、大会に向けてどのような課題があり、解決できるかということで、大阪万博 2025 で障害当事者が参画できたように、まちづくりにおける好機を逃さないようにアンテナを張っておくことの重要性、誰にとっても利用しやすい環境へ変えるためには障害当事者の声だけ

でなく、議員の方や行政の方、事業者の方、様々な立場の方がお互いに補完しあい、協力し合うことで実現できることを改めて感じる事ができました。これから始まる大会に向けて、当事者参画とともにバリアフリーな環境が出来ると感じました。

成果の広報・公表

・開催地区とのネットワークの構築

名古屋市：愛知県・名古屋市アジアパラ推進課、アジアパラ組織委員会、名古屋市健康福祉局、地域機関、地元団体、地元議員、事業者、大学

(1) 各団体への聞き取り調査 参加

・アジアパラ競技大会組織委員会、愛知県・名古屋市アジアパラ推進課とのネットワーク構築

(1) 定期的な情報交換

(2) イベント参加（アジア競技大会・アジアパラ競技大会 イベント）

・各競技施設及び交通アクセスの調査、説明会

(1) 業者との懇談及びモックアップ、見学会

(2) 現地調査及び報告会

・報道、メディアの取材

(1) 中日新聞、朝日新聞：当日 掲載 名古屋：事前、当日

(2) SNS ネットニュース 掲載 Facebook

今後の展開

日社済様からの助成をいただいたことにより、5期連続でシンポジウム開催することができ、障害ある方々への社会参加と障害に対する理解と意識改革があることで、『誰もが住みやすいまちづくり』を掲げ開催した結果、社会啓発及び行政機関

や事業者とのネットワーク構築という成果がうまれたと考えられます。

社会が様々な状況で動くとき、大きなきっかけとなり、2026 年に『アジア競技大会・アジアパラ競技大会』が開催されることから、大きく変わっていきます。その中で、『誰もが住みやすい社会』をかかげることの重要性、このシンポジウムで、「かたち」「しくみ」「こころ（意識）」の大切さを発信していきます。今年度大会が開催されますが、この大会がきっかけで、インクルーシブな社会、地域間格差をなくすことのスタートにしていき、一緒に作り続けていきたいと思っています。